① 手洗い推進活動

Nos actions pour la Promotion du Lavage des Mains
Activities for promoting washing hands

世界の子供たちの健康を守る

Protéger la santé des enfants dans le monde
Protecting the health of children around the world

1：子供たちへの手洗い習慣づけ指導活動

食事の方法や水の供給事情の違いから病気になる子供たちがアフリカやアジアにはまだ沢山います。食事の前に手を洗うこと、トイレの後に手を洗うこと、それだけを習慣づけることできっと多くの子供たちが病気に苦しむことがないはずです。その為の「手洗習慣」の指導活動です。

＜セネガル＞

セネガルでは、長老から小さな子供へと順に一つの大皿から料理を手で取ります【図1】。抵抗力のない乳幼児が最も菌を貰いやすく、伝染病が蔓延するのに時間がかかりません。
その現状を改善するには手洗いの指導が大切であると考え、小さな活動を続けておりました。グローバルな活動を進めるためにセネガル政府の支援を得【図2】、2002 年「手を洗おう会」を発足致しました。

＜図1　一つの大皿から手で食べる習慣のセネガル人＞　＜図 2　保健省の協力を得て母子に手洗い指導＞

首都のダカール市内でさえも学校には1～2個のじゃ口のついた水汲み場があるだけです。先ず、手洗いの大切さと手洗い方法の説明会を開きました【図3】。その後、市内の5つの学校の各クラスに手洗い用のやかんとたらい【図4】、それに30センチの棒石鹸を各学期2本配布し、各クラスの級長さんに手洗い指導をしてもらいました。

<図3　2002 年　各級長さんに配布したせっけんと手洗いセット>＜図4　手洗用のやかんとたらいセット>

当時、JICAと日本政府の協力で地方に百近い給水塔【図5】が建設されていました。
サハラ砂漠の広がる西アフリカでは水の確保がとても重要で、水の管理が地方都市の活性化につながります。女性社会参画活動の一つとして、地方都市、タイバンジャイでは女性が給水塔の水の管理をすることにより、それを資金に野菜や家畜を育て確実な収入を得ることに成功しました。
この活動を推進した当時 JICA 理事長・緒方貞子氏は、この街の発展には衛生面の向上も不可欠との意向で、私たちへ手洗い指導を勧められ、この地で保健省の方の協力のもと、多くの母子に手洗い指導をすることができました【図 6】。

<図 5 日本の ODA で建てられた給水塔>

＜図 6　2004 年　タイバンジャイでの手洗い指導＞

子どもたち一人一人に効率よく手洗い指導をしていくためには、学校の協力が必要と考え、各校の校長先生を集め、研修会「セタル・ハレ」を年数回行いました。具体的な活動としてリベリテ・サンク校やナフィサト・ニアン校などダカール市内の小学校5000人ほどの子どもたちへ石鹸の供給をし、紙芝居を上映【図7&図8】。寸劇が大好きなセネガルの子供たちは興味津々で真剣に「手を洗う会」の手洗い紙芝居に聞き入ってくれました【図9】。

<図 7　青年協力隊員＆顧問&現地スタッフによる紙芝居上演＞＜図 8　ナフィサト・ニアン校にて＞

＜図 9　紙芝居に夢中になる子供たち＞

2005年、学校へ行けないストリートチルドレンへの手洗い指導も開始。ストリートチルドレンには蛇口付きのドラム缶の大きさのプラスチック樽を寄贈し【図10】、手洗い指導のための紙芝居【図11】で手洗いの大事さを伝えました。

<図10　2005 年　ストリートチルドレンへ蛇口付きのプラスチック樽を寄贈>＜図11　紙芝居上演＞

2009年には手首で押し上げると石鹸が出てくるカナクラ手洗い器具【図12】をリベリテ・サンク校の各クラスに設置を試み、翌2010年には5つの支援校へこれまでと同様に棒石鹸と衛生道具一式を寄贈しました【図13】。

＜図12　喜んでカナクラ器具で手洗いをする子供＞
＜図13　各支援校の校長先生への棒石鹸及び手洗い用具一式寄贈式＞

現在、あしなが育英会の協力も得、ダカール及び近隣の4つ小学校(リベリテ・サンク校、ナフィサト・ニアン校、ケール・ドクトル・サンバ・カティ校、あしなが教育所)で棒石鹸、やかん&たらいなどの手洗い用品セット及び消毒剤を配給しながら正しい手洗い方法を指導し続けています【図14&図15】。

<図14＆図15　2019年　ケール・ドクトル・サンバ・カティ校での石鹸などの授与と手洗い指導＞

＜ベトナム＞

2004年にはベトナムでの活動を開始致しました。アメリカとの戦争の折、ベトナム北部にまかれた枯葉剤の影響で沢山の障害者がこの世に誕生してしまいました。このような子供たちの施設への支援をされていたベトナム前支部長そして現支部長の協力で二つの枯葉剤障害者収容施設、及びハノイの幼稚園や小学校にて手洗い指導を中心に毎年、石鹸供給を続けています【図16】。

＜図16　2005 年　友好村での手洗い活動＞

この数年、ベトナムでは鳥インフルエンザ流行により手洗いに大変関心を持ち始め、多くの幼稚園や小学校からの要望があり、現支部長は、助手の方と共に地道に【図17＆図18】手洗い指導をしております。

＜図17＆図18ハノイ市内の小学校での手洗い促進活動＞

2:世界の子供たちへの手洗い場設置活動

途上国や障害者施設において手洗いを習慣化するのは容易ではなく、先ずは利用しやすい手洗い場の設置や改善が必要になります。この援助活動により利用者の手洗い習慣が根付いていきます。

＜ベトナム＞

支援するベトナムの枯葉剤障害者収容施設「友好村」には共同手洗い場がなかったため、2015年にスロープ付き手洗い場を設置致しました【図19＆図20】。

＜図19＆図20　大きな食堂の横に設置されたスロープ付き手洗い場＞

またもう一つの枯葉剤障害者収容施設「平和村」の手洗い場のじゃ口も壊れ、車椅子が入らず手洗いが出来ないとの調査報告があり、2017年、彦根ロータリークラブとの協賛で平和村のトイレと手洗い場改修工事に踏み切りました【図21＆図22】。

＜図21＆図22　平和村のトイレ&手洗い場改修後＞

＜日本＞

2011年の東日本大震災の折、手洗い石鹸などが足りていないと仙台の会員からの情報をもとに同年、宮城県気仙沼の幼稚園を訪問し【図23】、手洗い促進活動を始めました、以来国内でも、世界子供絵画協力校の神奈川県久本小学校【図24】、津田山幼稚園【図25】、川崎の龍台寺【図26】他、東京都世田谷祖師谷保育園【図27】、港区の高輪台小学校【図28】、神奈川県朝比奈小学校【図29】など関東の幼稚園や小学校でも活発に手洗い促進活動をしております。

＜図23　気仙沼の幼稚園での手洗い指導＞

＜図24　久本小学校にてセネガル手洗い紙芝居上演＞

＜図25　津田山幼稚園にて手洗い促進&文化交流活動＞

＜図26　龍台寺にて紙芝居上演＞

＜図27　祖師谷保育園にてばい菌チェッカーによる手洗い指導＞

＜図28　高輪台小学校にて手洗い指導教育＞

＜図29　朝比奈小学校全校児童に対しての手洗い促進活動＞